

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○子どもたちの将来を見据えながら、まちと共に歩む学校づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの子どもが学習の楽しさを味わえる授業づくりを推進し、学力の向上に努めます。</li> <li>・一人ひとりの子どもが安心できる居場所を保証し、自尊感情を高めるとともに、互いの違いを認め、大切にしよう子どもを育てます。</li> <li>・全職員の協働意識を大切にしながら学校運営や教育課題に取り組む中で、職員の資質を高めていきます。</li> <li>・保護者・地域、近隣の幼稚園・保育園、小中一貫教育推進ブロックの各学校等と連携して、子どもの成長を支えていきます。</li> </ul>

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<p><b>確かな学力 (学習指導)</b></p>	<p>「わかった」「できた」という喜びを感じられる授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。また、授業での「学び合い」を重視し、言語活動を充実させる。</p>	<p>①「わかる」授業を確立し、子どもが何について考えればよいのか見通しをもって学習課題に取り組めるように指導技術を身に付ける。</p> <p>②スキルタイムを活用して、基礎・基本の定着を図る。保護者と連携し、家庭学習も充実させる。</p> <p>③子どもたちの主体的な学びの場を多く設け、子どもたち自身の気づきや思いを大切にしながら、読む・書く能力を養い、表現力の育成につなげる。</p> <p>④読書時間を確保し、語彙を増やし、文章を読み取る力を付ける。</p>
<p><b>担当</b> 学力向上部</p>		

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

<p>平成29年度</p>	<p>平成28年度</p>	<p><b>(1) 学力の概要と要因の分析</b></p> <p>全体の学力では横浜市の平均を下回っている。学習意識は各学年ともに市の平均を上回っている。「学習が好き」と答えている児童は86%となっており、市の平均78%を上回っている。教師は、児童の「好き」という気持ちを大切にしながら主体的に学び、問題意識をもてるような課題を取り入れていくよう、授業を組み立てていく必要がある。また、「分かる」楽しさを味わわせ、学習意欲の向上を図っていきたい。</p>
<p><b>(2) 教科学習の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科：「話す・聞く」は伸びている。「読む能力」が課題。図書室を活用するなど、読みの時間を確保する。</li> <li>○社会科：全体的に意欲的に取り組む児童が多い。クラス全体の疑問について話したり考えたりする時間をつくる。</li> <li>○算数科：「技能」は定着してきている。「考え方」について課題があるので、自分の考えを発表し、それを友だちの考えと比較したり、順序立てて説明したりする学習を定着させる。</li> <li>○理科：学習意識は高い。基礎・基本の力を軸にしながら、理科の観察や実験に必要な技能を身に付けていく。</li> </ul>		
<p><b>(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）</b></p> <p>学習意識は前向きに取り組む児童が多い。生活意識調査では「人とかかわることが好き」という児童は29年度95%と高い。昨年度までの重点研究の取り組みとなっている総合的な学習の時間で、地域の方々との関わりが大きな成果となっている。「横浜の時間」が好きという児童も市の87%を上回る90%となっている。</p> <p>一方、基礎・基本の定着のために「スキルタイム」の活用や「読書・日記」などの継続的な学習も大切と考える。しかし、読書の機会が少なく、一日の読書が30分未満の児童は55%と約半数となっている。国語の読む能力の低下にもつながっているため、読書活動から文章を読み取る力を身につけることが大切である。また、一人ひとりの発言は増えているが、互いの意見を聴き合い、自分の考えと比べるなど多面的な判断力を身につけていくことも必要と考える。</p>		

### 3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 1 学年

スキルタイムや家庭学習を通して、読み書きや計算などの基礎基本の定着を図る。家庭学習は、保護者に目を通してもらい連携して取り組む。また、国語と生活科の学習を軸にして、体験したことを基に、文章の書き方や話し方、聞く力、それに応える力を身につけることができるようする。そのために、教科の関連を図りながら学習を進めていく。学習に前向きに取り組む姿勢が身につくように、子どもたち自身の気づきや思いを大切に学習を展開していく。

#### 2 学年

スキルタイムや家庭学習を通して、漢字や筆算、九九などの練習を継続して行い、基礎基本の定着を図る。家庭学習は、保護者に目を通してもらい連携して取り組む。また、体験したことをもとに、文章の書く力、話す力、聞く力を身に付けるようにしていく。具体物の操作をしながら、思考を深め、考え方を説明する場面を十分にもつ。友だちのよいところを見つけて伝え合う活動や、協力し合う活動を取り入れていく。

#### 3 学年

相手意識と目的意識をもって学習に取り組めるようにしていく。また、考えたことを伝え合う活動を様々な形態で設定し、話の聞く力と伝える力を伸ばしていく。

スキルタイムでは、問題を解く速さではなく、丁寧に取り組むことを大切にする。読書タイムでは、一定の時間を確保し、一人ひとりが本の世界に浸る経験を保証することで、語彙や表現を増やすだけでなく、家庭学習にもつなげたい。

#### 4 学年

スキルタイムや家庭学習で計算や漢字練習に継続的に取り組み、基礎基本の定着を図る。また、自分の考えを適切に表現する力を伸ばしていくために、文章や図で表す活動を多く取り入れていく。考えを伝え合う場面では、自分の考えを友だちの考えと結び付けたり、比べたりしながら話をしていくことを価値づけ、学び合いの姿勢を育てていく。

#### 5 学年

計算や漢字などの基礎・基本は、スキルタイム、家庭学習で継続的に取り組み、力をつける。

自分の考えを言葉や文章、図で説明する機会を多く設けることで思考力を育む。話し合い活動を活発に行い、自分の考えを明確にしたり、友だちの考えを受け入れたりすることを通して、多面的・多角的に物事を捉える力を育てる。

#### 6 学年

学習成果を上げるための土台となるべき、意欲の向上を第一に目指していくように努める。そのために、日々の復習や間違え直しなどを中心とした反復学習に取り組めるようにしていく。粘り強く取り組んだことが、成果に表れることで学習への達成感を味わえるようにしていきたい。

自分の考えを伝えること、友だちの考えを受け止めること、各教科等を通じて、高め合って学習し合える力を育てていく。

#### 個別支援学級

○自立活動を学校教育全体を通して適切に行うことで情緒的な安定をはかり、学習内容の中心として重きを置いていくようにする。

○児童の発達が進んでいる分野をさらに伸ばすことで、遅れている側面を補うことができるような指導内容を取り入れていく。

○個々の児童の能力や実態に応じた具体的な指導方法を工夫し、意欲的な活動を促すようにする。